

# 観光振興対策特別委員会記録

開催日時 平成31年2月18日(月) 13:02~14:48

開催場所 第1委員会室

出席委員 8名

中川 崇 委員長  
岩田 国夫 副委員長  
亀田 忠彦 委員  
池田 慎久 委員  
松本 宗弘 委員  
田尻 匠 委員  
乾 浩之 委員  
今井 光子 委員

欠席委員 なし

出席理事者 折原 観光局長

増田 まちづくり推進局長 ほか、関係職員

傍聴者 6名

議 事

- (1) 2月定例県議会提出予定議案について
- (2) その他

<会議の経過>

○中川委員長 ただいまより観光振興対策特別委員会を開会いたします。

本日、当委員会に対し、6名の方から傍聴の申し出がありましたので、入室していただきます。

なお、この後、傍聴の申し出があれば、さきの方を含め、20名を限度に入室していただきますので、ご承知ください。

それでは、案件に入ります。

2月定例県議会提出予定議案のうち、当委員会に関係する議案は、お手元に配付しております平成31年2月定例県議会提出予定議案一覧に記載の議案のうち、丸印をつけた議案となります。予算議案のうち当委員会に関係する事業については、平成31年度一般会計特別会計予算案・平成30年度2月補正予算案の概要の抜粋版を作成して、お手元に配

付していますので、ご確認ください。なお、個々の議案の説明については、議案説明会が行われたため省略いたします。

次に、観光局長から、平成30年度大立山まつり実施概要について報告したいとの申し出がありましたので、説明願います。

**○折原観光局長** 平成30年度大立山まつり実施概要について報告します。

今年度の大立山まつりは平成31年1月26日土曜日、1月27日日曜日の2日間、平城宮跡歴史公園の朱雀門ひろばで開催しました。従前から実施しています伝統行催事の披露、あったかもん等の地域の特産品販売、立山の展示を引き続き実施しました。伝統行催事の披露は17市町村から20団体、地域の特産品販売は全39市町村、立山の展示は3市町から3団体に出展いただきました。また、子どもや家族連れが楽しめる縁日も引き続き実施したところです。

それに加えて、今年度は新たに、実行委員会の会長に就任いただいた海龍王寺の石川住職をはじめとした民間の方々の企画力、発想力、ネットワークを生かしたさまざまな新規コンテンツを実施しました。奈良時代を学び体験できるワークショップや講話、会場を終着点とした飛鳥京・藤原京等をめぐるバスツアー、市町村職員とメディアやインフルエンサー等の方々とのご縁つなぎなどの企画を実施しました。継続企画と新規企画を合わせて30企画以上を実施しました。

また、朱雀門ひろばの利点を生かして、平城宮いざない館や天平みはらし館などの既存施設を最大限活用しました。1月26日土曜日のいざない館の入館者数は4,805人となり、昨年3月の開園日とその翌日を除き、過去最高となったと聞いています。さらに開催時間を2時間前倒しして、昼間の比較的暖かい時間に祭りを楽しんでもらうことで、地域の特産品をランチタイムにも楽しんでもらうことができました。2日間の来場者数は2万3,088人で、昨年の2万4,452人よりは多少減りましたが、昨年は開催日数が3日間でしたので、土日の2日間で比べますと昨年よりも増加しました。さらに日曜日の来場者数は9,714人となり、昨年の6,700人を大きく上回りました。

2ページ目の新しい企画の実施状況について説明します。

資料のワークショップ・講話のところですが、天平うまし館、天平みはらし館のVRシアターなどを活用して、ワークショップを計9回、講話・トークショーを計11回行い、合計で延べ650名以上の方にご参加いただいたところです。

また、奈良時代体験・天平茶体験については計12回行い、延べ70名以上の方にご参

加いただきました。

また、市町村とメディア等とのご縁つなぎですけれども、計4回の情報交換会を行い、合計で延べ120名の方にご参加いただいたところです。説明は以上です。

○中川委員長 それでは、提出予定議案またはその他の事項も含めて質問があれば、ご発言願います。

○今井委員 大立山まつりの説明をいただき、2日間で比べたら来場者が多かったということで、私も行かせていただきましたが、前の非常に寒い思いをしていたときから比べましたら参加しやすかったという印象はあるのですけれども、車をとめるところがないのでJR奈良駅からバスで行こうと思って駅に行ったのですが、どこがバスに乗るところなのかわからず大変迷いまして、しばらく並んでいたのですが、もう1本後ろのレーンのところがバスの乗り場だということにしばらくたってから気がつきました。やはりお祭りということであれば、駅におりたときから、今、奈良は大立山まつりで、ここから乗っていただけるのだということがもっとわかるように。職員もそこにいらっしゃいましたけれども、例えばお祭りなのだからはっぴを着ているなど、何かそういうものが感じられずに現地に行かせていただいたということで、もう少し工夫が必要だったという印象を持ちました。

それから先日、持続可能な観光ということで、春日野国際フォーラムで国際シンポジウムが2日間、2月4日、5日に開かれました。私も1日だけにしようかと思ったのですが、中身がおもしろそうだったので、結局2日間、丸々参加しました。このときに観光庁と県とUNWTOの主催ということで、最初に観光庁審議官の高科淳さんをご挨拶をされて、最後は和歌山大学の先生のまとめで終わるということでしたが、やはり主催者だから一言ということでご挨拶をされていました。言われていた中で印象的だったのが、文化遺産や歴史遺産を大切に保存して次世代に継承していくことの重要性、観光客の流入をとときにはコントロールする、こうしたことがあるということを経験することができたというまとめの発言をされていたのが、私としては大変印象深かったと思います。

今、奈良県は、文化財の活用の方向に非常に大きく足を踏み出しているように思うわけですが、持続可能という点で考えていったときに、やはり奈良県にしかない歴史など守るべきものは守っていく姿勢を崩してはいけないということを感じました。今回の大立山まつりでも皇室の儀式、天皇が着ておられたという白い装束なども紹介されていますけれども、これも史実とは違う想像の中のものであるということで、想像のものをつくって展示するのは、まずいのではないかという感想を持っています。

この間、沖縄県の首里城の復元のことがテレビで放映されており、首里城は何度か行っているのは表のところ、その裏のところは今回復元されたということを紹介されていました。首里城の場合は、まだはっきりわかっていないものについてはつくらないというのを原則に復元していると聞きまして、奈良県がこれから歴史遺産を活用するというのであれば、やはり史実を大事にしながら、それを生かした形でやるべきではないのかと思いましたが、その点で、今回、国際シンポジウムが奈良で開かれたということもありますので、今回のシンポジウムでどんなことを県として学んだのか、折原観光局長にお尋ねしたいと思います。

**○折原観光局長** 持続可能な観光に関する国際シンポジウムですけれども、観光庁との共催という形でUNWTOの後援もいただきながら、今井委員がおっしゃったとおり、2日間にわたり開催したところです。今回は産業観光をテーマにシンポジウムをしました。奈良県も伝統産業がさまざまある中で、そういったものを観光資源として活用しながらやっていくという観光のあり方について私自身も勉強させていただいたところです。

今井委員がおっしゃった、文化遺産、歴史遺産を大切に保存して次世代にということですが、今ある遺産を次世代に継承していくために、まさにそのまま放置をした形で残していくということではなくて、しっかりそういったものを活用しながらやっていくことが次世代につないでいく一つの形であると私自身は捉えて、学ばせていただいたところです。以上です。

**○今井委員** 確かに歴史的な遺産といいましても、現状的には土の塊というもの、土器のかけらということで、それだけでどこまで人に来てもらえるかということがあると思えますけれども、やはりそのものはそのものとしてきちんと置いて、その上でそれをどう活用するのかも考えるべきではないのかと思いましたが、意見を言わせていただきたいと思います。

それから、そのことで最近目にしたものが、県立万葉文化館です。県立万葉文化館は平成13年にオープンしましたが、飛鳥池のところに建てるということで発掘調査を行いましたところ、当時、最古の貨幣、富本銭が発見され、それをつくっていた鑄造所の跡が見つかるという、これまでの教科書を書きかえる歴史的な大発見がされたところでした。そして当時、先日、100歳で亡くなった歴史研究者の直木孝次郎先生なども、飛鳥池の保存のことで物すごくご尽力されたわけですが、結果的には、それを潰してどうか、きちんと保存するという形ではなくて県立万葉文化館がつくられました。130

億円だったと思います。私も何度も取り上げましたので金額を覚えています。それが最近になり、入場者数が低迷しているから同館のあり方や運営方法を検討する会議を設置するという事を知事が言われていると新聞報道で見ましたけれども、県はどのように考えているのか、この点についてお尋ねしたいと思います。

**○建石文化資源活用課長** 県立万葉文化館は、万葉集及びこれに関連する古代文化に関する調査研究を行うとともに、万葉文化に親しむ場を提供し、もって県民文化の向上に資するため、先ほど今井委員もおっしゃったとおり、平成13年に明日香村に開館されたものです。これまで万葉文化の調査研究やその成果を講演会等を通して発信するとともに、万葉集の歌に込められた万葉の世界をさまざまな展示や演出で体感できる施設として運営してきたところです。

あわせて、先ほど今井委員からもお話しいただきましたけれども、あの土地自体が史跡飛鳥池工房遺跡で、それについては、今までも県立万葉文化館の中に関連の展示室を設けていますが、それを強化することも考えているところです。

直近5年の県立万葉文化館は、入場者数についてもさまざまに取り上げられていますが、今、11万人で、ここ5年ほど推移しています。開館当初は古代歴史ファンや国文学ファンなどの来館を見込んでいましたが、開館から17年が経過して古代歴史ファンや国文学ファンだけではなく、子ども連れのファミリー層から高齢者や障害をお持ちの方など、幅広い層の来館者にご利用いただいているところです。今後も多様な利用者層のニーズを踏まえ、質の高いサービスを提供することにより、満足度の向上を図るとともに持続可能な観光の視点に立ち、県立万葉文化館だけではなく、地域や周辺の施設と連携し、エリア全体の活性化につながるよう取り組んでいきたいと思っています。

それに伴い、先ほど会議のお話もいただきましたけれども、地元の方や民間の方にもご協力いただきながら今後の運営を考えていく、そういうしつらえをつくっていきたいと思っています。先般、知事からもそういう報告を申し上げましたけれども、それをよりよい形で県として実現していきたいと考えています。以上です。

**○今井委員** 具体的にはどのような形で検討委員会のメンバーを選定したり、また見直しなど、何か考えておられることはありませんか。

**○建石文化資源活用課長** まだそこまで具体化していませんけれども、イメージしていただけますのは、先般、知事からもお話がありましたけれども、それをトレースすることにもなりますが、地元の皆様を代表する方、あるいは民間の方等にもご参画いただくような形を考

えています。

○今井委員 やはりこうした遺跡の活用などという場合に、地元の人たちの意見を聞いて進めていくのが大変大事かと思いますので、そうしたことで進めていっていただけたらと思います。

当初、25万人から30万人が来るということで、県立万葉文化館がつくられたのですが、実態としては今半数以下の入場者になっており、今、奈良県がつくっているいろいろなものが、あと20年、30年したときに何だということになってはいけないと非常に心配をしています。

それから、つい先日、2月12日に奈良公園のホテルが着工されました。朝8時半から工事に着手するというので、朝8時に現地に行きましたら、住民の皆さんが来られてまして、住民の皆さんとしては、説明会をしたけれども、会場が夜9時までだからということで打ち切られて、2月12日に着工しますという一言しかなかったと言われていました。普通、工事をする場合に、いつからいつまでどんな工事をするのか、どこの道を使うのかなど、地元の水道の工事や道路の工事でも、そうしたことは必ずされていると思うのですが、今回の高畑町裁判所跡地のところにはそういう標識が一切設置されていなくて、そして住民の皆さんが本当に寒い中で、100年以上鹿が入っていない空間でいろいろな生態系もきちんと調査をするという約束もあったのに、それもしないで着工して伐採するのはやめてほしい、出入り口の目の前が民家でしたので、入り口を別のところにしてほしいなど、私たちは普通に静かに暮らしたいだけなのですということを言われていて、やり方としてはおかしいと思いました。

工事の人たちは、皆さん、きょうからやるということで詰めかけておられたのですけれども、住民の人たちがいるので工事もなかなかできないという、板挟みのような状況の中で、現場の担当者は自分で判断できるという立場にありませんでした。そうしましたら、一度、奈良公園室の責任者に話をしに行くということで、上平奈良公園室長にお話に行かせていただきました。標識も出ていないし、きょうのところは、住民ともう一度話し合う機会を持ってからしたらどうかということだったのですが、上と相談をして、また後で返事をしますということでしたので戻ってきましたら、きょう着工しますという返事があったということです。上と相談をされたということですが、どなたとどんな相談をしたのかをお尋ねしたいと思います。

○上平奈良公園室長 看板等については、工事着工の2月12日にまず立てる予定でした。

といいますのは、ここはもめているところですので、それまでは一切看板類等は設置しない、工事もやらないということで、2月12日に看板類を設置して、それから工事に着工する予定でした。

その後、今井委員も来られて、考えてくださいと言われ、きょうは現地におられる方が非常に寒くなりますので、きょうは工事をしないということを約束してくださいということで承りました。そして増田まちづくり推進局長にも相談した結果、やはり2月12日に工事着工ということで、住民の方には迷惑をかけない、けがをしたりしないようにということで、住民の方がいなくなった時点で工事着工しました。以上です。

○今井委員 持続可能な観光のときにもいろいろお話が出ていましたけれども、やはり住んで良し、訪れて良しというのが持続可能な観光にとって欠かせない条件だと思います。そのときに、住んでいる人たちが、こういう強行的なやり方はやめてほしいと言っているのを、十分に話し合いをして進めていくというやり方をしないと。地元の人たちが、ここはいいところに来てほしいと、みんなそう思っているのです。ここは本当にいいところだと思って住んでいる人たちが、県のそういう強引なやり方に対して何だろうと思ってくると、本当に人が来なくなってしまうのではないかと思いますので、今回の県のやり方については納得できないと思っています。

工事現場に掲げる標識は、建設業法第40条で標識の表示について示されており、建設業者は、その店舗、建設工事の現場ごとに、公衆の見やすい場所に、国土交通省令の定めるところにより、許可を受けた別表の区分による建設業の名称などを掲げなければならないとなっているわけです。だから、工事をするのにその日にかけるのは、順番的には、普通の公共工事からしたら、おかしいのではないかと思っているわけですが、その点についてはどんなご意見かお尋ねしたいと思います。

○上平奈良公園室長 先ほども申しましたように、この場所は非常にもめている場所ですので、例えば看板を立てるにしても、2月12日から実施すると皆さんにお伝えしていますので、事前に立てるより当日立てるべきであろうと、そのほうがトラブルは少ないであろうということで、そのようにしました。

○今井委員 納得できませんので、別途、議論をしたいと思います。

それから、馬見丘陵公園のことです。馬見丘陵公園は、地元の皆さんの保存運動の中で残って、今大変いい形でうまくいっている事例だと思って、この公園がよくなっていくのを楽しみにしています。そして、この公園に行くのに最寄りの駅が、近鉄田原本線の池部

駅で一番近いのですけれども、この駅の名前を馬見丘陵公園駅にしてほしいと地元からの意見がありました。河合町も要望されたようですけれども、少し括弧をつけているような形で駅の名前そのものは池部駅のままなのです。電車に乗っているときに馬見丘陵公園の最寄り駅ですというアナウンスはしていただいていると聞いていますけれども、2020年にJRが大幅に変更、改正すると聞いていますので、乗り継ぎ切符の関係などもあるかもしれませんが、その時期にあわせて、駅名を、馬見丘陵公園駅に変更してもらえたらいいと思っています。その点で要望しておきたいのですけれども、お答えしてもらえないところはないですか。

（「ない」と呼ぶ者あり）

ないですか。

それと、JRの関係ですが、今、無人駅が非常にふえていまして、先日、JRの労働組合の皆さんと話をしていましたら、橿原市のイオンの最寄り駅のJR金橋駅、無人駅のトイレをなくすということを言われているようです。経費を削減するためにトイレをなくすということですが、無人駅でトイレがないと、本当に利用される方も大変ですし、駅員さんも何か催しがあったときには乗り継ぎの料金を集めるのに特別改札をされるようですが、その駅員さん自身が行くトイレがないということにもなりますので、これについては、やはりトイレはなくさないでほしいということをお願いしたいと思っておりますし、既に香久山駅ではトイレがなくなってしまっていると。皆さん、向かいの郵便局のトイレを使っているのですけれども、郵便局も土日は休みになりますので、本当に困っているということも聞いていますし、掖上駅もトイレなくすという話を聞いていますので、無人駅である上にトイレまでなかったら、観光、観光と言っても、おもてなしなどいろいろ言っても、きちんとトイレぐらいは、駅に行ったらトイレを使おうと思って行かれる方も多いと思うのですけれども、やはりそれについては、なくさないように県としても申し入れをしていただきたいと思います。その答えるところもないですか、ここには、ないのですかね。それなら、最寄りのところにぜひお伝えしたいと思います。

それともう1点、河合町の県道天理王寺線の道路の発掘で宮堂遺跡が見つかりました。私も一般質問のときに要望したのですけれども、縄文時代からの住居の跡地が見つかっているのです。住居が次々次々と同じところに年代がかわって建てられていったということで、そのあたりの土器だまりなども見ついている場所ですけれども、道路の工事が優先されるということですのですぐに埋め戻されてしまい、地元の方にしか遺跡があったという知ら



せがされていなかったという問題があります。

毎年、「大和を掘る」という速報展で、橿原考古学研究所附属博物館が遺物の公開を行っているのですが、今、橿原考古学研究所附属博物館がリニューアルをしていると聞いていますので、もしこれを公開していただくにしても大分先のことになると思います。先日、河合町にもお願いに行きましたら、町としてもできるだけ地元の人に知っていただきたいという要望を持っておられました。しかし、出土品は県の事業で出てきたものですので県のものということになりますので、県の協力をいただいたら河合町の施設を使って公開してもいいという意向を河合町は持っており、この点で何か県が考えていることがあったらお尋ねをしたいと思います。

**○建石文化資源活用課長** 今回の調査については、今井委員もおっしゃったとおり、県道天理王寺線の建設に伴う発掘調査でした。今までに4回、この遺跡の調査が行われています。今まで古墳である部分があるのではということもあったのですが、今回の調査で、恐らく古墳の可能性は低いだろうと。先ほど今井委員もおっしゃったとおり、特に古墳時代の集落の跡を中心にして検出されたところです。昨年11月に現地で説明会をしています。今、発掘調査を終わらして、現在、出土品について、橿原考古学研究所において整理をしているところです。

今井委員からも、展覧会の「大和を掘る」についてお話をいただきましたが、ご案内のとおり、今、橿原考古学研究所附属博物館は空調設備の大型改修に伴い、しばらく閉鎖しています。2年間の予定で12月から閉鎖しているところですので、今井委員がおっしゃったように、しばらくそちらでの展示ができない事情があります。地元のご要望もあるということも伺っていますので、幾つかの考え方があってと思っています。まず1つは、地元で講演会などが行われる際に出土品をあわせて展示するということができると思っています。また、少しハードルが高くなりますが、地元の施設での1日だけではない展示も考え方としてはあると思っています。それらの前提として、展示をする場所、施設の防犯、防災、展示環境等について、当然、1日であっても事前のチェックをした上で、可能であればということになると思います。

先ほど県が発掘したということがありましたけれども、当然、河合町を中心とした地元の皆様に一層知っていただくのは重要なことだと思っていますので、今後も出土品の一般公開に向けて、河合町とも話を進めながら調整を図っていきたいと思っています。以上です。

○今井委員 ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

○亀田委員 通告していませんので、簡単に数点質問します。

予算案の概要からざっと質問して、まとめてそれぞれから答弁いただけたらと思ひます。

107ページ、ホテル誘致推進事業のJETROですけれども、ホテルの誘致について聞きたいのではなくて、JETROが先日から開設され、レセプションに行かせていただきましたけれども、知識不足で大変申しわけないのですが、どれくらいの頻度でどのようなことをしているのかが知りたくて、どこの担当か分かりませんが、わかれば教えていただきたい。

というのも、私の地元の酒造会社が、JETRO主催のところにお酒のプレゼンテーションをしに行くと言っておられて、海外に向けて売りに行くプレゼンテーション、どうなったか結果は聞いていないのですけれども、そんなこともやっていただいているのかと。地元でいくとイチゴなども有名ですが、イチゴが輸出に向くのかどうかもあるのですけれども、どんな頻度でどんなことをやっているのかと。JETROが中心にやっているから、なかなか県がということになるのかもしれないのですけれども、どんなことをやっているのかというのを聞きたいと思ひます。これが1点目です。

もう1点は予算案の概要の114ページのサイクルスポーツイベントです。これはどんどんやっていただきたいことですが、ことしもヒルクライム大台ヶ原などが予算計上されていますけれども、年々どれぐらいの参加者なのか。定員が来たら切っていたのか。定員をもっと増員することが可能なのか。場所のことや、いろいろと運営上のこともあると思ひますけれども、すごく人気のあるイベントだと聞いています。前泊して前夜祭をして、当日レースをするということなので、よく私が言っているスポーツと観光を織りませたすばらしいイベントだと思っているのですけれども、ここに載っている分だけでも、どのようなものなのか教えていただきたい。

もう1点は、これは以前から申し上げていた、ことしは2019年で、ラグビーワールドカップが開かれる年であるということ。メーンは来年の東京オリンピック・パラリンピックということにはなるのですけれども、スポーツのイベントという観点だけではなくて、しっかりと奈良県をPRする、いい機会なのではないですかということで、その都度質問させていただいていました。外国からたくさんの方が、東京やいろいろとその会場に来る。オリンピックなどは世界各国から来るということになりますので、特に奈良県のPRするには絶好の機会ではないかというのがあって、2020年の東京オリンピック・パラリ

ンピックで東京のどこかのブースを借りて、関係する国々の人たちに奈良県とはこんなところですよということをしてPRしていただきたい。ただ、2020年、本番一発勝負でいくと、いろいろとふぐあいもあるかもしれないので、せっかくだから、2020年に向けて試験的に、2019年のラグビーワールドカップに来られる外国からの方に向けて奈良県のPRをどうしていくかというのは、おもしろいのではないのでしょうかということをお願いしてきましたけれども、ラグビーワールドカップに向けてと載っていますので、具体的にどういったことを考えておられるのか教えていただきたいと思います。以上です。

**○三原スポーツ振興課長** サイクルスポーツイベントに関してお答えします。

予算案の概要に出ているサイクルスポーツイベントですが、3つのイベントがあります。1つ目は、吉野地域を中心に、ロングライドと言われる長距離のツアーイベントで、「山岳グランフوندin吉野」というイベントがあります。こちらには、負担金180万円を予算計上して、お諮りしているところです。

2つ目は、亀田委員からご紹介がありました「ヒルクライム大台ヶ原」。これは大台ヶ原を駆け上るサイクルレースです。こちらと同じく、180万円の県負担金を予算計上しています。

3つ目は、「ツアー・オブ・奈良・まほろば」というイベントです。こちらは県の南部・東部6市村を回るイベントで、どちらかという、初心者から上級者まで幅広くということで、グループでチェックポイントをめぐるサイクリングイベントです。こちらには405万円の負担金を予算計上しています。

各イベントですが、まず、「山岳グランフوندin吉野」の参加者ですけれども、平成30年度の実績で600名です。目標人数は来年度700名ということで、例えば奈良マラソンのように定員の申し込みを上回る申し込みがあって、お断りしているという状況にはなく、ほぼ700名前後で推移している状況です。

2つ目の「ヒルクライム大台ヶ原」については、平成30年度の実績で703名です。目標は900名ですので、キャパシティとしては若干余裕がある中で推移しています。

3つ目の「ツアー・オブ・奈良・まほろば」は参加者数が433名、目標は600名で若干余裕があります。

多くの方に参加していただくのはもちろんですが、先ほどご紹介がありましたように、その日に来られてその日にお帰りになられるというよりは、南部・東部地域ですので、現地に来られてから少し時間があるということで、前夜祭をしたり、イベントとして

サイクリングをされた後に、その後のアフターイベントということで、少しでも滞在時間を長くする仕掛けを、地元の市町村、関係団体と協力して、引き続き取り組んでいきたいと思えます。以上です。

**○街道観光プロモーション課長** ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックを見据えた観光のプロモーションについてお答えします。

2つの考え方があると思えます。

まず、来られる前に積極的なプロモーション、これが一番大事だと思っています。今年度の取り組みとして、一つは、英仏のメディアに対してユーチューブのプロモーション動画を作成して、2月8日から2月22日、今ちょうどやっていますけれども、流しまして、そこから県の外国語ホームページに誘導するというプロモーションをやっています。

それと、来月に欧米豪のメディアに対して、県内にいろいろな体験型のメニューがありますけれども、こういったメニューについての紹介とあわせて、こういったメニューが欧米豪で受けるのかについての意見交換を奈良まほろば館でやりたいと思っています。といいますのは、奈良まほろば館ですと奈良県の物産といったものもありますので、じかに手にとって見ていただきながら、市町村から収集した各取り組みの説明をした上で、いろいろな意見交換、このようなことをやりたいと思っています。

来年度の事業ですけれども、奈良まほろば館は手狭なので、まだ会場等は決めているわけではありませんが、都内の適切な会場で、ラグビーワールドカップの時期にちょうど合わせた形で、欧米豪のメディア関係になると思えますけれども、来られた人たちに奈良の映像や物産といったものを体験していただく、こんな機会も設けていきたいと考えているところです。

それと、来ていただいている方ですけれども、現在、JRと連携しながら都内での大規模なプロモーションをやっていますので、こういったことを通じて奈良への誘客もあわせて図っていききたいと考えています。

**○岡本インバウンド・宿泊戦略室長** ホテル誘致推進事業にJETROのことがありましたので、そのご質問についてです。昨年11月にJETRO奈良事務所が開設され、ホテル誘致に関しては、例えば海外の投資家の情報という知見をお持ちであることから、JETROと連携した事業をやっていききたいと考えています。具体的にはJETRO自体の活動、業務は、産業・雇用の分野かと思えます。以上です。

**○亀田委員** JETROについては、予算審査特別委員会にも入りますので、そちらで聞

かせていただきたいと思います。

そのほかの質問については、よくわかりました。特に、このほかにも何か、南部・東部の地形を利用したというか、あのあたりを利用したイベントがあればと思うのですけれども、今お聞きすると、かなりの人気があるということは再認識しましたので、ぜひぜひ引き続いてできるようにお願いをしたいと思います。

もう一つ、観光プロモーションでやっていただいているラグビーワールドカップ、要は、来年の東京オリンピック・パラリンピックに向けてということですが、イメージとしては、うまくいくかどうかわかりませんが、東京オリンピック・パラリンピックの場合は、県内でも幾つかキャンプ地が決まったりホストタウンに登録されたりということで、明確にどこかの国とその地域が関係してくるので、特にその国の大使館とうまく連携をとって、その国の方がメダルをとったら一緒に何かイベントをするなど、そういうことができるのかと。ラグビーは残念ながらキャンプ地に選ばれなかったのですが、これはしょうがないとしても、何かそういったことも考えて、日本というか、奈良県と関係が構築できたいろいろな外国との関係は、さらに密に深めることもできるのではないかと思います。この前に聞いたのですが、何がきっかけになって人が来るのかわからないというのは、改めて思ったのですが、皆さん知っておられますか。今、漫画の本になっているそうです。神様がおりてきて主人公と一緒にいろいろな話をしていくというもの。その第1話に御所市の一言主神社の神様がおりてきて、その神様が家にこもってゲームを一生懸命する神様だということで、その神様と主人公がいろいろと物語を進めていく。その漫画が出てから、一言主神社にお参りに来る人が大変ふえているという話を聞きました。

ですので、何がきっかけになるかわからないと思いましたので、ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックで東京へ来た人が奈良県のイベントブースを見て、何かをぱっと感づかれて何かで広がるのかと。今、SNSでぱっぱっと広がったらすごく広がるので、そんなこともあるのでチャンスだという捉え方で、いろいろな取り組みをしていただけたらと思います。もしよかったら、その漫画の本でも置いておいたらいいと思います。すごく人が来て大変なことになっているという話を前に聞かせていただいたので、ぜひぜひチャンスとして捉えていただけたらと思います。

あともう一つ、要望で終わりますけれども、いつも観光のときに思うのですが、予算案の概要にも載っていて、いいな、うらやましいなと思うのですが、聖徳太子没後1

400年記念事業をされていて、これはすごくいいことです。終わってから言ってもしょうがないのですが、神武天皇2600年大祭が3年前に開かれたのですけれども、1400年よりも1,200年古い2600年。ただ、神話の話ですから、これがどうだこうだということは別にここで言うつもりはないのですけれども。いつも言っているのですが、橿原神宮や神武天皇にまつわる取り組みが、県の取り組みとしては薄いといつも思うのです。そこはいろいろと理由があるのかと思いつつも、古事記、日本書紀には神話としても載っている話なので、初代天皇ということ、建国の地ということは、そういう認識で私たちもいますし、日本全国広しといえども建国の地はここしかないわけで、そこをクローズアップして何か取り組みができないのかといつも思うのです。いろいろと事情があるのかというのも何となく空気感ではわかるのですけれども、そういったことではなくて、文化、歴史という観点をもう少しピックアップして、観光誘客につなげていただけたら。すごい材料が、2600年の大祭ができる、そんなところはここしかないのではないかと。次は2700年なので、ここにいる誰もがいなくなることになるので、もったいなかったといつも思うのです。いつも建石文化資源活用課長にいろいろと聞いてはいますので、あえて答弁を求めませんが、これは、ぜひぜひ折原観光局長も頭の中に入れていただいて、橿原神宮、神武天皇、このあたりを利用したイベントはないのかと、そういうことお願いして、質問を終わります。

○池田委員 私からも数点質問をしたいと思います。

まず、奈良公園バスターミナルについてお尋ねします。奈良公園バスターミナルは、1月11日に内覧会が開かれ、私も参加させていただきました。非常に立派な施設です。4月13日にオープンということですが、どれだけのバスが来て、どれだけの方々がそこに集って、どれだけの方がその施設で楽しみ、いろいろと奈良での時間を有意義に使っていただけるのかとワクワクする気持ちでおります。4月13日といいますとゴールデンウィーク前ですが、既に春の観光シーズンに入ってきますし、ゴールデンウィークが過ぎますと、いよいよ修学旅行をはじめとする観光バスが奈良にやってくるピークを迎えるわけです。

そこでお尋ねしますが、奈良公園バスターミナルでお客様をバスからおろします。その空車になったバスをどこに駐機させようと奈良県は考えているのか、まずお聞かせいただきたいと思います。

○上平奈良公園室長 奈良公園バスターミナルは観光バスの乗降所として使用するため、

空車になったバスは既存の高畑駐車場と、新たな場所として大和郡山市上三橋駐車場に駐機していただきます。高畑駐車場については滞在時間の短いバス、上三橋駐車場については滞在時間の長いバスを回送する予定です。以上です。

○池田委員 奈良県においては2カ所、空車のバスを駐機させる場所を用意されるということです。ご答弁のとおり、高畑駐車場、大和郡山市の上三橋駐車場の2カ所ということですが、それぞれ空車になったバスがバスターミナルから駐車場まで、また駐車場からバスターミナルへお客様を迎えに来られると思うのですが、どのようなルートで移動するのか、それぞれお答えいただきたいと思います。

○上平奈良公園室長 まず、高畑駐車場については、県庁西交差点を右折して、油阪交差点を左折し、木津横田線に入り、大森町交差点、紀寺交差点を經由して、奈良教育大学前を左折して南側からの進入を予定しています。バスターミナルへも同じルートを逆に帰ります。上三橋駐車場については、同じく県庁西交差点を右折して、大宮通りを西に進み、二条大路南1丁目交差点から国道24号を經由し、大江町南交差点を左折、木津横田線を經由して、駐車場へ誘導します。帰りについては、木津横田線をそのまま北進して、油阪交差点で右折し、ターミナルへ誘導します。以上です。

○池田委員 バスのルートについてお答えをいただきました。奈良公園バスターミナルを利用されるバスは1日当たりどれぐらいの台数になるのか、1年平均何台ぐらいなのかということと、先ほど申しましたように、春の行楽シーズンピークや秋のピークのとき、それぞれ、これまでの実績で1日当たりどれぐらいバスが奈良にやってくるのか、説明をお願いします。

○上平奈良公園室長 平成29年の実績から年間平均ですと、1日220台です。ピーク時、5月、6月の春については平均284台、秋の10月、11月については平均276台となり、およそ280台が1日当たりの駐車量となっています。以上です。

○池田委員 ピーク時には、春、秋の行楽シーズンで、1日約280台の観光バスがやってくるということです。これまでこのシーズンになりますと、県庁、奈良公園、近鉄奈良駅の近くまでずっと観光バスが渋滞をして、地域の生活や経済活動などいろいろな面で支障があったということです。奈良公園バスターミナルができて、渋滞緩和を図っていくということも大きな目的の一つですけれども、先ほど答弁にありました、用意される2つの駐車場へどのように割り振るのかと。上平奈良公園室長の答弁では、滞在時間が短いバスについては高畑駐車場に、滞在時間が長いバスについては大和郡山市上三橋駐車場とい

うことですが、滞在時間については、どれぐらいを境に高畑駐車場と上三橋駐車場に振り分けられるのか。あわせて、それぞれ予想される割合、バスが例えば100台来ました。高畑駐車場にはどれぐらいの割合が、上三橋駐車場にはどれぐらいの割合かについてもお聞かせいただきたいと思います。

○上平奈良公園室長 滞在時間については、現在、2時間を考えています。2時間より短いバスについては高畑駐車場、それを超えるバスについては上三橋駐車場で予約をとろうと考えています。その結果、割合は、高畑駐車場はおおむね3割程度、上三橋駐車場は7割程度と想定しています。これは5月に実際に運行時間、出庫時間、滞在時間等を調べた結果のデータをもとに想定をしています。以上です。

○池田委員 奈良公園バスターミナルは、先ほども申しました、繰り返しになりますけれども、観光シーズンにおける奈良公園周辺の交通渋滞の緩和、解消を目指す、これも大きな設置の目的の一つです。やってみないとわからないということだろうと思いますけれども、ぜひ、所期の目的を達成していただくようお願いしたいと思います。先ほど答弁されましたように、高畑駐車場に3割程度で、ピーク時には280台掛ける約3割です。で、おおむね84台のバスが高畑駐車場にということなのです。

先ほどルートをご説明いただきましたけれども、市内循環道を通るということになります。このあたりについても非常に交通量も多いですし、市内循環バスをはじめとする路線バスも多く頻繁に走っていますので、このあたりの交通渋滞が心配されるわけですが、やってみないとわからないというところもあるかと思しますので、ぜひスムーズに誘導できるように。また、県庁前から近鉄奈良駅にかけての交通渋滞、観光バスがずらっと並ぶというのは確かになくなったけれども、周辺が交通渋滞になったと、影響が広がったということでは何をやっているのかということになりますので、このあたりについても十分シミュレーションをしていただいて、しっかりと取り組んでいただきたいとお願ひしておきたいと思ひます。

2つ目です。奈良県における宿泊客をふやす取り組み。これはこの観光振興対策特別委員会でも繰り返し出ていますように、日帰り観光客が多い奈良県の観光において、泊まっただけで滞在型にシフトしていくと。そうすることによって奈良の奥深い魅力も十分、観光に来ていただいた方、奈良を訪れていただいた方に知っていただく、味わっていただく、体感していただくことにもつながりますし、何よりも、経済面においてもお金を使っただけなので、表現が悪いかも知れませんが、奈良県に落ちるお金が滞在時間が



長くなればなるほど大きくなっていくということですので、そういう意味で、宿泊客をふやしていこうということで、今、県も民間も、奈良県に投資をということで一定進んでいるように感じているところです。奈良県の観光入込客数は最新のデータで、統計でどれぐらいなのかを改めてお伺いしたいと思います。

あわせて、奈良県全体の観光について、いろいろな課題がまだまだあるかと思いますが、奈良県観光の現状をどのように認識されているのかについてもお聞かせいただきたいと思います。

**○岡本インバウンド・宿泊戦略室長** 観光入込客数についてです。

最新の状況としては、平成29年奈良県観光客動態調査報告として、先月に公表したところです。これによりますと、平成29年の観光入込客数は、延べ人数で約4,420万人となっています。前年との比較ですと約13万人、0.3%の増となっています。これは去年との比較ですので、もう少し長く5年前との比較をしますと、約873万人、率では24.6%の増となっています。これが観光入込客数の状況です。

この増加についての現状の分析という形でお答えしますと、5年間で、特に外国人観光客が163万人増加しています。倍率でいいますと、この間、4.6倍に外国人観光客がふえたという形になっています。これが大きく寄与しているものと考えています。

伸びているということでの個々の要因ですけれども、オフシーズンにおける各種のイベントが定着してきたのではないかと考えています。さらには各地域別、これは個別の要因として、例えばという形での答えになりますが、春日大社における第六十次式年造替に係る奉祝行事がいろいろありましたので、その関連のにぎわいが続いていると。また、先ほどもお話がありましたが、馬見丘陵公園の来場者が好調な推移を見せているということ。また、平成28年に明日香村のキトラ古墳壁画体験館四神の館がオープンしたのも影響があるのかと。さらには自然体験ということで、キャンプ場の利用者の伸びなどが挙げられると考えています。

この辺がここ数年の入込客数増加の現状ということで伸びていますけれども、宿泊者の伸びを5年間で見てみますと、これも伸びてはいます。平成29年の奈良県の延べ宿泊者数は、日本人、外国人合わせて265万人でした。これは前年との比較では、5.3%の増加で、5年前と比較すると、トータルでも7%の増加にとどまっています。5年間の比較ということではいいますと、先ほどご紹介しました入込客数の伸びに比べて、宿泊者数の伸びは鈍いと考えています。以上です。

○池田委員 今るるご説明をいただきましたけれども、観光客数は着実にふえているというのですが、たしか平成28年が4,400万人を超えていたように思いますので、そう考えると、平成28年から平成29年については、そんなに観光入込客数がふえていないと言えます。いわゆる受け皿たる奈良県の許容がこれぐらいしかないものなのか、繰り返しになりますけれども、周遊をうまく誘導できていないのか、あるいは、宿泊施設がないから毎日大阪と奈良を往復するというのは観光に来られる滞在客においては大変な時間のロスになるでしょうから、そういう意味では、宿泊施設が足りないからそうなっているのか、いろいろな要因があると思うのです。

当然、県当局も分析をされているのだらうと思いますけれども、奈良へまず来ていただく。来ていただくことと、それから泊まっていただくことの2つについて、これからもぜひ力を入れてやっていただきたいわけですが、特に新年度、どのような事業かということで予算資料を見ますと、新規事業としてインバウンド宿泊キャンペーン事業をやるということです。外国人向けの宿泊客の増加と観光消費額の拡大を図るために、奈良を訪れる外国人観光客を対象に県内宿泊施設における宿泊料金を割り引くキャンペーンを実施すると。それから、これも新たな事業ですが、先ほど亀田委員からもお話が出ていましたけれども、JETROと連携をしながらホテルを誘致しようというホテル誘致推進事業。特にJETROですから海外とのパイプがあるということで、海外のホテル事業者を奈良に誘致しようではないかという取り組みを始められるということです。

あわせて、既に以前からされていますけれども、宿泊施設支援推進事業。これが予算額が倍近くになっているということで、宿泊施設の質の向上を図るためには非常に有効な事業と思っています。ほかにも、滞在環境の快適性の向上という観点からいえば、外国人観光客受入環境整備促進事業で、これも約3倍近くの予算額になっています。特に新規事業としては、宿泊施設や観光施設のバリアフリー化、キャッシュレス化の促進と、これは国が中心になって、今まさにキャッシュレス化を促進しようという動きがあるわけですが、こういった受入環境の整備。ほかには、外国人観光客県内周遊・滞在促進事業ということで、意欲のある市町村に県として一定の支援をしよう、こういった事業の予算が非常に大きな増額となっています。

これら全てにおいて、やはり大事なことですし、おもてなしという観点、奈良に来てよかった、また来たい、そういういい印象を持って帰っていただくというのは非常に大事なことだろうと思っています。そこで、観光振興対策特別委員会でも何度も出ていますが、

観光消費額、日帰り客と宿泊客、実際どれぐらいお使いになっていただいているのか、また、その差はどれぐらいあるのかについて教えていただきたいと思います。

**○岡本インバウンド・宿泊戦略室長** 観光消費額についてです。

県全体での観光消費額という形でまずご紹介しますと、平成29年は、年間で約1,630億円になっています。対前年で16億円の増、率で言えば1.0%の増加になっています。内訳は、日帰り客と宿泊客に分かれるのですけれども、日帰り客が、全体1,630億円のうち1,046億円、宿泊客については584億円という構成になっています。これを外国人ということで見てみますと、総額では171億円、日帰り客では125億円、宿泊客では46億円というのが最新の状況です。以上です。

**○池田委員** 日帰り客が多いので、当然、使っていただくお金も日帰り客のほうが1,000億円を超えているということですが、単価でいうとどのようになるのでしょうか。1人当たりの数字をお持ちならば教えていただきたいと思います。

**○岡本インバウンド・宿泊戦略室長** 1人当たりの観光消費額は、全体でいきますと、平均、1人当たり6,655円となっています。これを日帰り客と宿泊客に分けますと、日帰り客は4,731円、宿泊客は2万4,484円ということで、1人当たりの単価の平均が日帰り客の単価に非常に近い状況になっており、日帰り客の割合が極めて高いという状況になっています。以上です。

**○池田委員** 平成29年でもそうですから、今までもそうですけれども、日帰り客と宿泊客でいえば、約5倍近く消費をしていただく金額が変わってくるということですので、そういうことから、これも繰り返しになりますが、やはり泊まってもらわないといけない、滞在してもらわないといけない、できるだけ長く奈良にいていただかないといけないということになるわけです。

宿泊については、先ほど申しましたように、さまざまな課題があると思いますし、それに対して奈良県も、いろいろなメニューを新規事業も含めて用意して鋭意取り組んでいただいていると思いますが、県として、宿泊にかかわってどのような現状認識を持っているのかについてもお聞かせいただきたいと思います。

**○岡本インバウンド・宿泊戦略室長** 先ほども申しましたが、奈良を訪れていただく観光客数については、平城遷都1300年祭がありました平成22年が過去では最高であったのですが、翌年には一旦減ったものの、それ以降は伸び続けており、平成29年には、先ほど紹介しましたように、4,420万人ということで、平成22年の観光客数に

迫りつつある状況となっています。ただ、依然として宿泊客数は少ない状況で、観光消費額も低い状況であり、本県が日帰り通過型観光地であることが大きな課題です。

その大きな要因となっていますのが、県内のホテル、旅館の施設数、客室数が全国最下位レベルの状況が続いているということです。宿泊滞在型の観光地に転換していくためには、宿泊施設の質と量の充実が極めて重要であると考えています。上質な宿泊施設の整備とともに、多様なニーズに応えるバラエティーに富んだ宿泊サービスを充実させて、奈良に泊まる観光客をふやしていく必要があると認識しています。以上です。

○池田委員 量と質ですね。私は、奈良市ですので、JR奈良駅や近鉄奈良駅周辺は、5年前に比べると随分、ビジネスホテルをはじめ、宿泊施設がふえてきていますけれども、県内全体を見渡しますと奈良市のエリアが中心で、それ以外の地域においては、そういった動きがあまり見られないと思います。また、関西全域で見ますと、奈良もそれなりの宿泊施設投資が生まれつつあるわけですが、大阪、京都は、奈良の恐らく10倍ではきかないでしょう。何十倍というスピードで宿泊施設ができ、客室数もふえているということです。もちろん大阪、京都に追いつけ追い越せというのは奈良は無理ですが、奈良らしいおもてなし、奈良らしい滞在のあり方をしっかりと研究していただいて、これからも鋭意取り組んでいただくことをお願いしておきたいと思っています。

次に、皆さん、京都おこしやす事業というのをご存じでしょうか。

京都おこしやす、京都そのものなのですからけれども、何の事業かといいますと、京都にお越しになる、主に修学旅行の子ども、児童生徒に対して、食物アレルギーを持っている子どもに安心して京都への修学旅行を楽しんでもらうために、食物アレルギーの専門の医者、宿泊施設、レストラン・食堂、旅行会社、NPO患者団体、行政などで構成しています、食物アレルギーの子 京都おこしやすプロジェクト会議というものを設置されて、まさに修学旅行等、特に食物アレルギーをお持ちのお子さんに対する対応を丁寧に、きめ細かにされているのが京都おこしやす事業です。

京都府は奈良県と隣接ですし、同じような観光地であるわけですが、例えば、今申しました食物アレルギーの子どもたちに、安心して観光、旅行を楽しんでいただくための体制として、修学旅行に来られる前に事前の聞き取りということで、旅行者、学校、保護者を中心に調査票をとっておられます。調査票を踏まえて、このお子さんにはこういうアレルギーがあるのでこのようなメニューを用意しましょうといった対応を、事前に情報を共有しながら受け入れの準備をされるということです。その食物アレルギーの事前調

査票を踏まえて、実際来られたアレルギーを持つ子どもたちに、特にモデルとなる宿泊施設、食堂、レストランなどにおいてはモデルとなるメニュー例もつくっておられます。それから、そのメニューで、食事で使用した調味料を表記したり、あるいは、特定原材料7品目と呼ばれるアレルギーが多い食品、卵、乳、小麦、落花生、えび、そば、かきの7品目については特に注意が必要ということで、このあたりについてもすごく気を使っておられるようです。

私ごとですが、実は私、日本そばのアレルギーで、食べると大変なことになるのですが、私の小学校・中学校時代の修学旅行に、そのようなことがあったのかと振り返りながらですけれども、幸いそばにはあたらずに元気に修学旅行を過ごすことができたのです。特定の原材料に準ずる20の品目、食品、例えば、いくら、やまいも、鶏肉、いか、さば、フルーツであれば、キウイフルーツ、りんご、オレンジなどもこの中に入っています。こういったことを丁寧にしていくことは、少し表現が悪いかもわかりませんが、旅館、ホテル、レストラン・食堂、お弁当屋さんなど、食事を提供するところについては非常に手間のかかるというか、大変なことだろうと思います。京都府においては、既に協力していただいている業者の数、まず宿泊施設については、ことしの1月29日現在で135施設が、京都おこしやす事業に賛同して協力をしていただいているということです。それから、食事を提供しているところについては、ことしの1月29日現在で31施設が協力をされているということです。

このあたりについてホームページにも、みんなでいっしょにおいしくたべよう、食物アレルギーの子、京都おこしやすメニューということで、先ほど言いました特定原材料7品目不使用ということで、さまざまなメニューが公表されている、ホームページからとってきたのですけれども、こういった取り組みをされています。

奈良県においても、食物アレルギーを持つ、大人もそうかもわかりませんが、とりわけ子どもたち、修学旅行に対する対応について、観光地奈良として、先ほどから何回も言っていますけれども、おもてなしという観点から大変重要なことだと、大切なことだと、この京都府の事業を聞いて感じました。現在、奈良県においては、小児科のお医者さんから、去年の秋ごろから私も相談を受けていますけれども、奈良県に対してそのような可能性がないか、できないかということで、要請、相談に来られているように伺っておりますけれども、現状、県としてどのように考えておられるのかお聞かせいただきたいと思います。

**○福井ならの観光力向上課長** 現在、日本国内では、何かしらのアレルギー症状の出る人

は約2人に1人とされています。とりわけ食物アレルギーについては、皮膚のかゆみ、口や目のただれ、意識障害、血圧低下などのショック症状を起こすということもあり、命にかかわることです。食事に特別な配慮を要する食物アレルギーの対応は非常に重要であると考えています。県としては、修学旅行、また修学旅行以外も含めて、安全・安心に奈良の旅行を楽しんでいただくためにも、関係部局、また業界団体の方々と連携しながら、例えば研修会を行うなど、アレルギー対策について取り組んでいきたいと考えています。以上です。

○池田委員 ぜひ前向きに、この問題の対応を進めていただきたいと思います。

奈良県は今、ならの観光力向上課が窓口になっていただいていますけれども、京都府は実は、健康福祉部健康対策課が窓口になっています。どちらがふさわしいのかは県で決めていただけたらいいと思いますけれども、県でやっていこうということで今、各施設とも研修会を開きながらという力強い前向きな答弁をいただきましたので、ぜひ、観光局で進めていただければと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

以上で質問を終わります。

○乾委員 まず、大立山まつりにつて、2日間でおさまりましたけれども、私も行かせていただいて、コンパクトになって中身のある充実したイベントだと思いました。しかし近鉄大和西大寺駅から歩いて行ったわけですけれども、20分、30分もかかりまして、イベントの場所を把握していたらよかったと感じているところです。その中で、シャトルバスを利用していただくように今度来られる方にもっとアピールしたら、そちらのほうからみんな乗って行かれると思います。ガードマンもあっちこちに立っておられましたけれども、こんなところにガードマンが必要かと思うところにもおられました。ただ立っているだけで、何をしているのかと思う人もおられましたから、減らすなり、違うところに持っていくなり、いろいろなことを考えていってほしいと思います。

私は大立山まつりの推進派で、これからもずっと続けてやってほしいと思います。というのも、地元の広陵町大垣内の立山を盛り上げていただいて、広陵町もアピールできる場所として大変喜んでいられるわけです。ぜひとも、これからもよろしくお願いします。

それから、先ほど今井委員から質問がありました、馬見丘陵公園についてです。やはり池部駅に馬見丘陵公園駅という大きな名前をつけていただけたら、もっとアピールできるかと思っています。その中で、池部駅から馬見丘陵公園までの移動の支援を今後、どのようにやっていこうと考えておられるのかと。以前に、馬見丘陵公園の中に電動自動車というの

か、12人乗りのバス、カートのような形の車を走らせていただいたこともありました。そのような車を使って池部駅から公園まで移動支援をしたらどうかと思いますが、そのことについてお答えいただきたいと思います。

12月のクリスマスウイークのときには、去年は3万4,000人ぐらいの方が来られたということで、奈良県のイベントとして知っていただけるようになったと思います。その中で、広陵町商工会も一緒になって広陵クリスマスフェスタをやらせていただいて、いろいろなブースを、15カ所出していただいて、なかなか盛り上がりましたが、やはり足元が暗いということでクレームなどがいろいろありまして、場所をレストランのあたりに持って行って、ブースをつくっていただいたらいいのかと。そして、その中で地場産業の靴下など、いろいろアピールできる場所として、これからも一緒になってやっていただいて、また、竹取公園にもつなげて行って、あの場所も広陵町と一緒にまちづくり、イベントにつなげて行ってほしいと思います。

以前、知事からも雑談ではありましたけれども、冷温室を考えているということも聞いています。それをつくっていただくとともに、イベントのときには駐車場が少ないということで、この前も駐車場がないと言って、駐車するところがないから帰りましたという話も聞いています。あのときは、皆さんもご存じのように北口が駐車場でしたけれども、ほかに東口、南口の駐車場もありますけれども、午後5時になったらぴたっと閉められるわけです。そういうことで車を駐車するところがないのです。今回、中央口も開放して、午後7時ぐらいまであけるとするのはできないのかと。ガードマンもつけて午後7時までやっていただいて、やはりローテーションで帰られる方もおられるし、来る方もおられるので、案外うまく駐車できるのではないかと考えてます。そういうことでお願いしたいと思います。

また今回も、12月のイルミネーション、クリスマスのイベントとしていろいろな予算をつけていただきますけれども、今10万球ということで、すばらしいイルミネーションですけれども、ことしはどれぐらいやっていただければいいのかお教え願いたいと思います。

**○佐竹公園緑地課長** 馬見丘陵公園についてのご質問です。

まず、クリスマスウイークについてお答えします。馬見丘陵公園のクリスマスウイークは、昨年12月21日から25日の5日間の開催で、乾委員お述べのように3万4,000人の方にごらんいただきました。特に言われていました渋滞の話ですけれども、大体夕方5時ぐらいにイルミネーションが点灯するのですが、会場が北エリアになっており

まして、北エリアの駐車場に非常に車が集中して、渋滞が起きているという状態になっています。周辺のほかのエリアの駐車場についても、乾委員お述べのように午後5時で閉めており、今回の状況を見まして、中央エリアの駐車場についても午後5時以降も開放して、さらに、そこから北エリアへは真っ暗な状態で歩いていただくこととなりますので、動線も確保できないか、これから検討したいと考えています。

2点目が、広陵町商工会主催の第1回広陵クリスマスフェスタと同時開催という形で今回、クリスマスフェアをさせていただきました。その場所が北エリアの芝生の広場のところで、当日雨が降った関係で、少しぬかるんでしまって非常に歩みにくいという状況でした。そういうご意見もいただいていますので、今後続けていくに当たり、広陵町商工会と、対応策についていろいろ調整を図っていきたいと考えています。

また、イルミネーションについては、今年度10万球で、来年度はどれだけになるのか、今すぐに何万球ということはお答えできないのですが、私どももイルミネーションの拡大、イベントや物販の出店の内容も工夫するとともに、広陵町商工会の協力もいただきながら、より魅力のあるイベントになるように取り組んでいきたいと考えています。

その次に、イベント時の移動支援、カートの支援です。近鉄池部駅から馬見丘陵公園までカートでの支援ができないかということですが、こちらについては、一昨年10月の馬見フラワーフェスタのときと、昨年4月の馬見チューリップフェアのときに、各2日ずつ、12人乗りの電動カートで社会実験をしました。その結果としては、天気がよくて来場者が非常に多いときにはたくさん乗っていただけると。特に高齢者の方、幼児連れの方には好評を得ているという状況でした。公園の中ですので、カートを走らすことに対する安全性の確保と、もともと緑道等の木橋は、人が歩くことは対象にしているのですが、車を走らすことまでは対象にしているため、そういうところの耐荷力がどの辺りまであるのか、補強が必要なのか、そういう課題も整理しながら、移動支援の導入に向けて取り組んでいきたいと考えているところです。

それともう1点、冷温室の設置です。いろいろ事例があります。他府県の事例を、いろいろと調べているところです。冷温室を入れるに当たっていろいろな課題がありますが、他府県の状況なども調べながら、規模、内容、運営方法も勉強させていただき、具体化に向けて取り組んでいきたいと考えているところです。以上です。

**○乾委員** いろいろ期待しています。特にことしの12月のイルミネーションには大きな予算をつけていただくというような答えだと確認していますので、どうぞよろしくお願



します。

要望ですけれども、巢山古墳の整備については、広陵町で、国からいろいろ補助をもらって、県教育委員会からもいろいろもらってやっているのですけれども、完成するのが平成34年ぐらいの予定です。あれがいち早く完成することによって、観光客も馬見丘陵公園に来ていただいて、巢山古墳にも来ていただいて、いろいろな勉強もできる機会ができると思うので、県から、国へいろいろお願いしていただいて、前倒しで早くできるように要望して終わります。

○中川委員長 ほかに、質問はありますか。

そうしましたら、答弁者がいなかったのですけれども、無人駅のトイレがなくなる問題については重要なものだと思いますので、どこが県の窓口になるのか調べて、今井委員に報告しましょうか。そのようにさせていただきます。

それでは、これもちまして質問を終わります。

なお、当委員会所管事項に係る議案が追加提出される場合には、当委員会を定例会中の2月28日木曜日の本会議終了後に再度開催しますので、あらかじめご了承ください。

それでは、理事者の方のご退出願います。

委員の方は、しばらくお残り願います。

(理事者退席)

それでは、ただいまから委員間討議を行います。

委員間討議もインターネット中継を行っておりますので、マイクを使って発言願います。

当委員会は設置後2年間を経過し、2月定例会最終日の調査報告をもって終了するわけですが、調査報告に係る調査報告書案及び委員長報告案については、事前に各委員にお送りしております。

まず、お手元に配付しております調査報告書案または委員長報告案について、何かご意見がありましたらご発言願います。

○池田委員 内容については事前にお配りいただいておりますので特に問題はないのですが、奈良インバウンド観光戦略20年ビジョンは、たしか今年度に取りまとめだったように記憶しているのですが、何かお聞きになっておられますか。特にきょうは何もなかったのです。

○中川委員長 そうですね、確認して、もし、今、まとめないといけないということでしたら、次の観光振興対策特別委員会、2月28日にということでもいいでしょう。確認の上、今年度でしたら2月28日にしてもらおうようにしたいと思います。

○池田委員 ありました。2019年中にビジョンを策定と。

○中川委員長 ありましたか、2019年。

○池田委員 済みません、失礼しました。

○中川委員長 ほかは、大丈夫でしょうか。

それでは、その他、若干の文言整理については、正副委員長にご一任願いまして、この調査報告書案及び委員長報告案により、当委員会の調査報告としてよろしいでしょうか。

(「はい、よろしくお願ひします」と呼ぶ者あり)

それでは、そのようにいたします。

それでは、これで本日の委員会を終わります。